



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

生成AIの利活用に関する 学生向けガイドライン

© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved.

2024年3月4日
DX戦略会議

ChatGPTをはじめとする生成AIは社会に急速に浸透し、今や学生の皆さんも簡単に利用できるようになりました。生成AIは非常に便利である一方で、使い方を間違えると、学業や研究にマイナスの影響を与える可能性があります。たとえば、課題レポート作成を生成AIに完全に依存してしまうと、学びの機会を失うだけでなく、倫理的な問題を引き起こし、自分自身の信頼性にも傷をつけかねません。

そこで、本学での学業や研究において、皆さんが生成AIを有効かつ安全に活用できるよう、本ガイドラインを作成しました。生成AIの利用にあたっては、このガイドラインを参考にしながら、一人ひとりが責任感を持って賢明な判断を下せるようになることを願っています。

なお、本学とは無関係な場面での利用にあたっては、本ガイドラインに書かれた内容を参考にしてください。

対象生成AI

本ガイドラインが対象とする生成AIには、
ChatGPT (OpenAI)、Copilot (Microsoft)、Gemini (Google)
など、主に文章を生成するものだけでなく、画像を生成する
DALL·E (OpenAI)、Stable Diffusion (Stability AI)、Midjourney
や、その他、動画や音楽などを生成するものを含みます。

1. 基本的な考え方	P.4
2. 活用方法	P.5
3. 禁止事項	P.6
4. 相談	P.7
5. 注意事項	P.8

1. 基本的な考え方

本学での学業や研究に関わる生成AIの利用について、基本的な考え方を、以下にまとめます。

- (活用) 学びや研究を深めるため、また、その効率を高めるために活用する
- (禁止) 学問的誠実性に反する利用は行わない
- (相談) 利用して良いか迷ったら、授業担当教員 (or 研究指導教員) に相談する
- (注意) 生成AIに関する一般的注意事項を踏まえて利用する

次ページ以降に、詳細を示します。

2. 活用方法

学びや研究を深めるため、また、その効率を高めるために活用する

本学での学びや研究を自分自身で深めたい場合や、学習効率・研究効率を高めたい場合に、生成AIを活用することを、本学としては推奨します。

ただし、授業担当教員や研究指導教員から、生成AIの利用制限や禁止が指示されている場合は、その指示に従ってください。

(活用例1) 外国語学習への活用

ChatGPTを外国人として振る舞わせ、外国語会話の練習相手にできます。また、自分が書いた外国語の文章について、文法的な誤りを指摘してもらったり、文法の解説をしてもらうことができます。

(活用例2) 授業で興味を持ったトピックや分からなかった点について調べる

授業で興味を持ったトピックや、分からなかった点について、調べることができます。また、そのトピックについて、理解を深めるため、生成AIと対話（意見交換）することも可能です。

(活用例3) 研究への活用

研究テーマに関連する情報を探すことができます。また、論文や記事などを要約（+和訳）してもらうことで、大量の文献を効率的に理解することができます。

なお、生成AIの出力に誤りが含まれている可能性に十分注意してください。

(→ 「注意事項 (その2)」)

3. 禁止事項

学問的誠実性に反する利用は行わない

「学問的誠実性」(Academic Integrity)とは、大学における教育や研究の営みの中で求められる誠実さを指し、正しく行動するための基本原則と言えるものです。例えば、試験でのカンニングや、実験データの捏造・改ざんは、右に示した「公正」や「信頼」などの観点から、学問的誠実性に反する行為となります。

生成AIについても、学問的誠実性に反する、以下のような利用を禁止します。

(参考)

Honesty (正直)	Trust (信頼)	Fairness (公正)
Respect (敬意)	Responsibility (責任)	Courage (勇気)

学問的誠実性における6つの基本的な価値
(International Center for Academic Integrity による)

https://academicintegrity.org/images/pdfs/20019_ICAI-Fundamental-Values_R12.pdf

- ① レポートや小論文、プログラミングにおけるソースコードなど、作品(成果物)の制作において、生成AIの出力をそのまま、あるいは、一部の改変のみで、自分が作成したものとして提出すること
- ② 問題への解答(宿題を含む)や、自分の意見表明が求められている場面で、許可なく生成AIを使用し、その出力を自分のものとして提出すること

生成AIによる出力を自分のものと偽ることは、「正直」という価値に抵触し、自身の「信頼」を損なう行為です。また、学習機会を失い、自身の学びへの「責任」を放棄する行為でもあります。

上記の行為を行った場合、不正行為として取り扱われることがあります。

上記以外の場合でも、学問的誠実性に反すると判断されるような利用の仕方はしないでください。 6

4. 相談

利用して良いか迷ったら、授業担当教員（or 研究指導教員）に相談する

生成AIの利用について、それが学問的誠実性に反するかどうか、自分だけでは判断できないケースもでてくるでしょう。そのような場合は、授業担当教員（研究においては、研究指導教員）に相談してください。

（例1）課題レポートを作成する際、生成AIに文章案を作成させ、それを参考にしながら、あらたに自分で文章を作り直すのは許されるか？

レポート作成においては、アイデア出し／情報収集・調査／章立て／文章案作成／推敲などの各段階で、生成AIを活用することが可能です。しかし、生成AIを利用することで、課題を通して身に付けるべき能力が養われなくなる恐れがあります。その課題の意図を含め、どのような使い方なら許されるのか、教員に尋ねてみてください。

（例2）自分は留学生で日本語が得意ではない。母語で書いた課題レポートを、生成AIを用いて日本語に翻訳し、提出して良いか？

日本語による文章作成力を養うことが目的の一つとなっている課題でなければ、教員は認めてくれるかもしれません。あるいは、日本語で書いた文章の推敲になら、生成AIの利用を認めてくれるかもしれません。その課題に対する生成AIの利用の仕方について、教員に相談してみてください。

5. 注意事項（その1）

生成AIに関する一般的注意事項を踏まえて利用する（プロンプト入力時）

生成AIを利用するにあたっては、いくつかの大事な注意事項があります。
ここでは、生成AIへの指示（プロンプト）入力時に注意すべき事項を挙げます。

①. 公開可能な情報のみを入力する

入力した情報が生成AIの学習に利用され、第三者への回答として出力されることを防ぐため、外部に公開されても問題ない情報のみを入力するようにしてください。**個人情報や秘密情報などを入力してはいけません。**

②. 法規制遵守の観点に十分注意して入力する

生成物が既存の著作物（音楽、映画、写真、コンピュータプログラムなどを含む）と同一・類似している場合、当該生成物を利用する行為が著作権侵害に該当する可能性があります。**既存の著作物に類似する生成物に繋がるようなプロンプトは入力しないようにしてください。**

【禁止事項】

- * 個人情報や秘密情報などをプロンプトに入力する
- * 特定の作家や作家の作品のみを学習させた特化型AIを利用する
- * 既存権利の侵害に繋がるようなプロンプトを入力する

（NG例）「夏目漱石の作品「吾輩は猫である」に似せて文章を作成してください」

5. 注意事項（その2）

生成AIに関する一般的注意事項を踏まえて利用する（生成物利用時）

生成AIを利用するにあたっては、いくつかの大事な注意事項があります。
ここでは、生成AIからの出力（生成物）を利用する際に注意すべき事項を挙げます。

①. 生成物（出力文章）の信憑性を確認する

生成AIからの出力文章は、誤りを含む可能性があります。また、偏った価値観・倫理観が反映される恐れがあります。出力を鵜呑みにせず、**複数の情報源を用いての事実確認**や、**出力内容の批判的な検討**を必ず行なってください。

②. 生成AIによる生成物を利用していることを示す

部分的にであれ、生成物を利用した作品（課題レポートや、プログラムのソースコードなど）を公開（教員への提出を含む）する場合には、**生成AIを利用したことを、どのように利用したかも含め、作品内で明示**するようにしてください。

（例）「本ガイドラインの文章を推敲する際、ChatGPTを利用した。」

【禁止事項】

- * 出力文章を無批判に信じる
- * 出力文章の信憑性を確認せずに、作品等に使用する
- * 生成AIによる生成物を利用したことを示さず、作品を公開する